

教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する事項

<大学院心理学研究科>

本研究科は、心理学の専門家として教育界及びその他の分野で広く活躍できる人材を育てることを目的としている。博士前期課程は心理学、臨床心理学の2コース、博士後期課程は心理学コースを設置している。また、心理学における多面的教育をより推進するために「インターディシプリナリー研究」を必修科目として課すほか、心理学分野の多彩な演習と特論を開講している。特に、博士前期課程臨床心理学コースにおいては、財団法人日本臨床心理士資格認定協会の基準に沿った臨床心理士養成が重要な目的で、実務経験なしで同資格試験が受験可能な第一種指定大学院の課程編成をしている。それらの臨床心理学の特論や演習、実習などを通して、臨床心理士として必要な専門的知識を幅広く習得し、また、人間的準備性を身につけることを目的としている。専門社会調査士資格の取得も可能なように編成されている。

<主要科目の特徴と目標>

科目名	内容の特徴	目標
臨床心理学特論	前期は心理査定に用いられる諸技法の中で重要な位置を占める心理テストについて検討し、投影法の意義について考える。後期は心理療法について、多くの学派があることを学び、その差異や特徴について理解する。	心理臨床家としての基本的な心理査定と心理療法の方法を習得し、それらの意義を理解できるようになる。
臨床心理面接技法論	前期は、箱庭療法やイメージ療法などの実習を通して心理臨床家としての感受性を磨き、後期は言語面接の基本的な技法と理論を習得し、ロールプレイ実習を行う。	心理臨床家として基本的な面接技法や治療理論を習得し、基礎的な治療技術を身につける。
精神医学特論	脳の精神現象、精神障害の病態、神経系の疾患について症例の検討を通して検討し、精神障害の予防や地域精神保健活動を展開するための基礎的知識を修得する。	精神障害に関する基礎的な知識を習得し、臨床活動における医学的診断に関する知識を身につける。
多変量解析特論	社会調査データ解析の主たる方法となる多変量解析について学習する。特に、解析結果の数値を読み取るだけでなく、研究仮説と照らし合わせて解釈する実習を行う。	多変量解析について基礎的な理論的背景を習得し、基本的な解析ができるようになる。
人格心理学特論	人格の発達の形成とその障害をめぐる理解を深め、人格の機能と構造についての専門的知識を土台にした臨床的判断を習得する。	心理査定や心理療法の実践に必要な「人格理解」を習得する。
投影法特論	投影法、主にロールシャッハ・テストの理論と方法を習得し、実習することを通して、臨床実践におけるアセスメントの基本的理解を深める。	具体的な事例や実習を通して、投影法の実際を体験し、基本的な解釈ができるようになる。
発達心理学特論	母子の直接観察などによる実証的研究に基づきながら展開したアタッチメントの発達に関する知見を習得し、人格の発達の形成過程をアタッチメントの観点から学ぶ。	最新のアタッチメント理論に触れ、それらの知見を臨床的に用いることができるようになる。
心理療法特論 I, II	クライアント中心療法や力動的・深層心理学的な心理療法、さらに認知行動療法などのさまざまな心理療法のアプローチとその背景にある理論について学び、実践的に応用する方法を身につける	さまざまな心理療法のアプローチやそのための見立てについて臨床的に学び、クライアントを理解する力の向上をめざす。

科目名	内容の特徴	目標
学校臨床心理学特論	学校現場での心理相談活動、教師との連携やコミュニケーションの方法など、学校臨床の見立てや介入について、スクールカウンセリングの実践例から学ぶ。	学校現場や教師の意識を踏まえたスクールカウンセラー活動の実際を学び、実践に生かす。
障害者（児）心理学特論	発達初期の関係性の質が、後期の精神病理への保護要因あるいはリスク要因としてどのように関連するのかという発達精神病理学の知見を概説する。	関係性形成のつまずきやすい発達障害児を援助するための専門的知識を修得する。
社会心理学特論	対人社会心理学の中から特に人間の攻撃性に焦点をあて、その処理論を概観するとともに、日常場面で見られる「いじめ行動」についてそのメカニズムについて理解する。	社会心理学的な観点から「いじめ行動」の発生過程を理解し、その防止に役立てることができる。
インターディシプリナリー研究	臨床心理学、社会心理学、臨床発達心理学、健康・スポーツ心理学・犯罪心理学など、幅広い領域からの研究を概説し、それらを統合した人間科学の学際的学びをめざす。	幅広い領域の専門的研究の触れ、学際的な見地から人間についての深い洞察を得ることができる。

博士前期課程臨床心理学コースを修了するために必要な単位数は 38 単位となっており、臨床心理士資格認定協会が定める要件に従って、以下のカリキュラムを履修するよう指導している。

授業科目名	開講期	単位数	配当年次
臨床心理学演習 A・B	通年	各 4	M1・M2

上記の授業科目は必修。

授業科目名	開講期	単位数	配当年次
臨床心理学特論	通年	4	M1
臨床心理面接特論	通年	4	M1
臨床心理査定演習	通年	4	M1
臨床心理基礎実習	通年	2	M1
臨床心理実習	通年	2	M2

上記の授業科目はすべて必修。

A群

授業科目名	開講期	単位数	配当年次
多変量解析特論	前期	2	M1
インターディシプリナリー研究	通年	4	M1

A群の授業科目は2科目とも必修。

B群

授業科目名	開講期	単位数	配当年次
人格心理学特論	前期	2	M1
発達心理学特論	後期	2	M1
学習心理学特論	前期	2	M1

C群

授業科目名	開講期	単位数	配当年次
社会心理学特論	後期	2	M1
犯罪心理学特論	後期	2	M1
臨床心理関連行政論	前期	2	M2

D群

授業科目名	開講期	単位数	配当年次
精神医学特論	後期	2	M1
障害者（児）心理学特論	後期	2	M1
老年心理学特論	前期	2	M1

E群

授業科目名	開講期	単位数	配当年次
投影法特論	後期	2	M2
心理療法特論Ⅰ	前期	2	M2
心理療法特論Ⅱ	前期	2	M2
学校臨床心理学特論	後期	2	M2

上記のB群からE群の授業については、各群1科目が必修だが、極力全科目を履修するよう指導している。

<履修モデル>

在校生の1週間（モデルケース・修士課程臨床心理学コース1回生の場合・前期）

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1時限目	多変量解析特論				
2時限目	人格心理学特論		臨床心理面接法特論	臨床心理学特論	障害者（児）心理学特論
3時限目	臨床心理学査定法演習	発達心理学特論	臨床心理基礎演習	社会心理学特論Ⅰ	精神医学特論
4時限目		臨床心理実習	臨床心理基礎演習		
5時限目	インターディシプリナリー研究	臨床心理実習	臨床心理実習	臨床心理学演習A（ゼミ）	臨床実習